

土の上を歩くことが恋しいと就農

大阪から神戸へ赴任中に準備をして単身就農

坂口ファーム（神戸市西区押部谷町和田）坂口 敏文さん（70歳）（神戸市西区）

生きがいコース1，2期生(H16.修了)

インタビュー 令和3年10月

1 なぜ、農業をしようと思ったか

大阪の枚方に30年以上住み大手電機会社に勤めていた。定年後どうするか考えたときに「長い間、土の上を歩く生活をしていなかった、土の上を歩くことが恋しい」と思った。大阪の就農フェアに2回参加して具体策を調べた。また、家庭菜園でやっていた枝豆やホウレン草が上手くできなかった。2000年に神戸に単身赴任となった時に楽農生活センターの生きがいコースに参加することにした。



2 楽農学校卒業から就農まで

楽農生活センター卒業後大阪府農業会議や京都府の農業改良普及センターを訪ね農地を探した。奥さんには、別荘地を探すと言って探したが奥さんを案内すると「こんなところには住めない神戸なら住んでも良い」との反応であった。

また、栽培品目は大阪府や神戸農業改良普及センターでトマトかいちごと言われ、価格動向を調べ海外との競争があっても大丈夫と見込みイチゴに絞った。神戸農業改良普及センターや神戸市を訪問して、普及センターから西区のイチゴ農家の紹介を受け毎週土曜の午前中作業を半年間手伝った。神戸市からは、5日間の農家研修受講を勧められトマトと有機農業農家で研修を受けた。

仕事をしながら農地を探したが良いところはなかったが、神戸市の研修でお世話になったトマト農家から農地を紹介してもらい早期退職後の2007年に就農することができた。

5月ごろに農地確保してから退職金でハウスを10アール整備し9月の定植に間に合わせた。

息子の賛成を得て奥様の説得をした。家族は大阪住まいなので、退職後社宅を引き払い新たに住居を探し神戸に一人で住んだ。



3 恵まれた人間関係

生きがいコースで習わなかったイチゴの技術が習得できたのは、①神戸農業改良普及センターの熱心な普及員が指導してくれたこと。②年5回のいちご高設栽培勉強会に参加して、同業者が集まり隠し事なしに教えあう場で勉強できたこと。③国の近畿中国四国農業試験場の腋花房生育促進技術試験に協力したことから県や国の研究員と

親しくなり色々教えてくれたことが大きい。

2011年にはテレビ朝日の「人生の楽園」に出演し知名度が上がった。

これらのことに恵まれ自分はラッキーだと思う。

4 現在

就農後 15 年、70 歳を迎え栽培面積も 16a となった。味で勝負との考え方から栽培は手がかかり収量も多くないが、やよい姫、おいCベリー、兵庫県開発の新品種「あまクィーン」を作っている。販売方法は、直売でJAの六甲のめぐみや、しあわせの村、ゴルフ場に販売している。ゴルフ場などは営業で開拓した。その結果、売れ残り率は2%から0.5%に減らすことができた。六甲のめぐみには、開店前の出荷に加え昼前に追加出荷もしているがお客様が追加出荷の時間を狙って来店してくれるようになった。2022年4月には、さかぐちファームの直売所を開設した。

研修生も受け入れており、親方農家制度、インターンシップにも協力している。

総合環境制御技術を導入し炭酸ガス施用にも取り組んでいる。データを測定し数値で把握・判断していくことは得意で、企業勤務経験が生きている。

単身就農は5年間で終わり、枚方の家は処分し奥様も神戸に転居された。



5 今までを振り返って

台風で被害を受けたこともあったが農業(施設園芸)共済に加入していたので大変助かり、大きな支障もなく今まで、人間関係に恵まれ順調にやってこられたことはラッキーだと思う。55歳から就農したが早く始めていればもっと大きくできたと思う。農業をやってよかった。

就農前からの計画通り2年目にはハウスを拡張し、3年目に16aに拡張した。技術面、労力面、資金面から適正規模を十分検討し、いきなり大面積に取り組まず、見通しを持ちながら拡大していった。

新しく就農する人には、とにかく農業をやりたいというだけではだめ。例えば、イチゴに取り組む人はすごく増えた。初めて作って直売所に持っていきただけでは売れない。どういう売り方をするか十分に考えてすべき。直売所やスーパーへ卸すのであれば、その販売先の目星を付けていくこと、ハウスを拠点として直売や観光つみとりを行うのであれば、ターゲットになるお客さんが近隣にいるか、同業者が密集していないか等を検討してほしい。

